凡事徹底 野間中だより

平成２８年３月　３日
第２２５号
野間中学校

卒業おめでとう

教頭　山下　博之

ある国の王様が，人々に質問しました。
「世界でいちばん大切なものは，何でしょうか。」
さて，みなさんはどう答えますか。「生命」「友達」「家族」……
きっとたくさんの答えがありますね。どれも大切なものです。
そのときの，王様の出した答えは，「求める心」でした。

みなさんは，野間中学校を卒業して，それぞれの進路に向かいます。自分の進路は自分で決めなければならない場面がたくさんあります。晴れの日ばかりでは，ありません。曇りの日や雨の日もあります。そんなときに「自分はこうしたい」という求める心を大切にしてください。夢があれば，努力はできるものです。
３年生のみなさん，ご卒業おめでとうございます。みなさんの未来に幸多かれと祈ります。

主幹教諭　村松　秀樹

先日，ある有名な元プロゴルファーの方の講演会に出かけました。講演会の最後に聴衆者からの質問に答えてくれるコーナーがあり，「イ・ボミ選手はなぜ強いのですか？」という質問がありました。その先生が言うには，「再現性の高いスイングができること」とお答えになりました。さらに「きれいなスイング＝上手ではない。正しいスウィングを正しく繰り返すことが大切。そのためには正しい練習を正しく繰り返すこと。イ・ボミ選手は誰よりも正しく繰り返す練習をしている。同じことをすることがいかに難しいかわかりますね。」とお答えになりました。
昨年まで野間中学校の教頭先生だったアジアマスターズ陸上金メダルの木村和代先生はいつも「誰でもできることを誰もできないくらい続けられることがわたしの強さ」とおっしゃっていました。トップアスリートの強さはそこなんだなあと改めて思いました。
３年生のみなさん，卒業おめでとう！みんなと体育を勉強できたことはわたしにとってとても楽しかったし，誇りに思います。発揮揚々！残った残った！　がんばれ！野間中生！

岩本浩三先生より　彫刻作品をいただきました

２月１８日（木）】美浜町布土にお住まいの彫刻家，岩本浩三先生より「人間の生きた証」をテーマにした彫刻作品をいただきました。岩本先生は名古屋造形芸術大学などで美術教育に３０年以上携わった先生で，河和中にある「共立の塔」なども岩本先生の作品です。

今回野間中に寄贈していただいた彫刻作品は作品名が岩本先生のご意向で，野間中生につけてほしいと言うことでした。現在，野間中生より作品名を募集し，命名して大切に展示していきたいと思います。

岩本先生ありがとうございました。

岩本先生の作品は正面玄関に展示してあります。
ご来校の際には是非ご覧ください。

編集部より　「野間中だより」をご愛読ありがとうございます。「野間中だより」に関するご感想やご意見がございましたら，編集部までお寄せください。

野間中だより編集部　nomajh_dayori@yahoo.co.jp

表彰の記録　（順不同・敬称略）

全美浜卓球大会
　中学生の部（シングルス）
　　優　勝　畑中彩月季　　第２位　井田　乃愛　　第３位　中山　聖梨
　中学生の部（ミックスダブルス）…野間中関係分
　　第３位　新美たんぽぽ

野間中　今年度の研究・授業実践　　教務主任　清水　靖

「わかる喜び・できる楽しさを実感できる生徒の育成を目指して」
－学習規律の確立と基礎基本の定着を図る学習指導を通して－

「わかる」「できる」を実感できる授業づくりを目指しての授業研究実践，今回は３年生道徳「人々の善意や支えに応える」の授業実践を紹介します。

名塚美喜教諭の授業実践

教諭　　名塚　美喜

単元について

　中心資料「帰郷」は，主人公が母の入院をきっかけに故郷へ戻った際，周囲の温かさに触れることで，今まで自分が多くの人々に支えられていたことに気付き，「有り難い」という気持ちをもつという内容である。

　たとえ直接関わっていなくとも，人生は多くの善意や支えによって成り立っており，それらに報いるためにできることを考える。そして，その行為が新たな感謝の心を生み，互いが互いを思い合うことで豊かな人間関係が構築していくことに気付かせる。また，生徒自身の周りにもある善意や支えに対する感謝の気持ちを改めて実感し，それらに応えようとする意欲を高めさせたいと考えた。

クラスでの話し合い

大まかな学習過程

・「ありがたい」と感じた経験を発表し合う。
・主人公の周囲にはどのような善意や支えがあったかを発表し合う。
・あなたが主人公の立場だったら，この後どうするかを話し合う。
・話し合いから感じたことや考えたことを発表し合う。

目標

・日々の生活の中にある周囲の善意や支えに有り難さを感じ，それに応えようとする意欲を高める。

基礎基本の定着を図る指導の具体的な手立て

自分の考えを述べる

　授業の導入の部分では，「有り難い」という言葉から，「ありがとう」には「自分にはできない」「すごい」という意味も含まれると気付かせることで価値への方向付けをし，話し合いをしやすい手立てをとった。

　また，主人公の周囲にあった善意を話し合う前に発表させることで，読解が苦手な生徒にも，老夫婦が世話をしてくれることへの感謝の気持ちだけでなく，立場を思いやって申し出てくれていることや，主人公の重荷にならないようにという母親の配慮，店の常連や同級生などの関係が薄いと思っていた人々からの気遣いに気付かせ，その後の中心発問に対する視野を広げるようにした。

　更に，今までの道徳の授業ではタブー視されていた，自分自身に置き換える発問をあえて投げかけることで，より現実性をもって自分の行動を考えられるようにしてみた。

　板書では，主題を明記しておくことや，出た意見をマッピング化することで，話し合いの内容を視覚でも確認できるようにした。実際の話し合いでは，少人数の話をまず取り入れることで意見を交流しやすくするとともに，全体の話し合いでも，似ている意見を挙手でまとめることでそれぞれの立ち位置や考えの変化が分かりやすくなるようにした。

考察

　答えが一つではない課題に対する発言に躊躇する生徒が多い実態があったが，少人数グループでの話し合いを取り入れることで活発に発言する様子を見ることができた。しかし，個人で考えをまとめる時間をとらなかったため，自分の言葉で明確に伝えられなかったり，他の意見に流されていたりする様子も見られた。発問後に個人の考えをまとめたり，プリントに書き起こしたりする時間を設けることによって，その後の話し合いを通しての考えの変化もより明確になることが期待できた。

　また，考えを自分の中でまとめ，心の準備をしてから発言をさせるために，挙手にこだわったが，話し合いが停滞してしまったり，上手く話し合いを構築したりすることができなかったので，発表前に机間巡視をして意図的指名を織り交ぜると，より深い価値観の高め合いができたのではと感じた。

次回は授業以外の研究実践を紹介します。